

～「淡雪こまち」の減農薬・減化学肥料栽培を主体に～

かづの水稲直播通信 令和4年7月19日

令和4年度第3号

発行：鹿角地域振興局農林部農業振興普及課

草丈長く、茎数少なく、葉色やや淡い

月日	7月中旬			7月下旬			8月上旬	
	10	15	20	25	30	5	10	
生育	10 ~ 11葉期			12葉期		出穂期		
	幼穂形成期			減数分裂期				
水管理	湛水管理：カドミウム吸収抑制							
作業	幼形～減分追肥							
	畦畔・農道の草刈り(出穂の10～15日前まで) ←草刈り禁止期間→							

1 生育状況

表1 直播ほ場調査結果(7月14日)

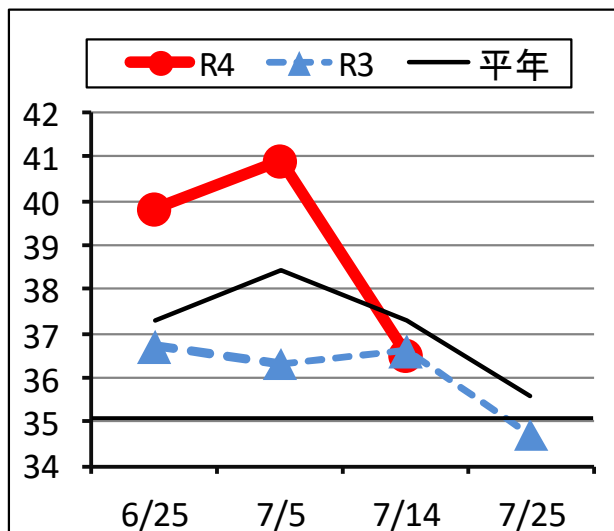
	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	葉色 SPAD
本年値	61.0	488.4	9.2	36.5
平年値	54.6	587.4	9.3	37.3
前年値	58.9	622.7	9.7	36.6
平年比・差	112%	83%	-0.1	98%
前年比・差	104%	78%	-0.5	100%

○7月14日に実施した水稲直播栽培ほ場(淡雪こまち：8カ所)の生育調査では、草丈は平年比112%と長く、茎数は平年比83%と少なく、葉数は平年並となっています。

○また、本年は、6月25日から7月5日まで、葉色が平年より濃く経過していましたが、7月14日調査では平年比98%まで低下しています。

○今後は、葉色の推移に注意して、ほ場毎の生育に合わせた管理を実施しましょう。

図1 葉色の推移(6月25日～7月25日)



2 水 管 理 ～中干しを終了し、カドミウムの吸収抑制管理を～

○中干しは、幼穂形成期前までには終了します。その後はカドミウム吸収抑制対策として、出穂前後各3週間の7月15日頃から8月25日頃まで湛水管理を実施してください。

3 肥 培 管 理

○今年の生育は、草丈は平年より長く、茎数は少なく、葉色はやや淡い状況です。葉色の低下を見極め、ほ場毎の生育に合わせた追肥を行うことがポイントとなります。

○「淡雪こまち」の大部分は特別栽培基準となりますので、化学肥料の窒素成分が4kg/10aを超えないことが最優先です。各ほ場の施肥体系によって、使用される追肥資材の量や、後半有機部分の肥効により追肥がいない等ありますので、下表2を参照し、追肥の判断を行ってください。

○ただし、化学肥料の窒素成分がすでに4kg/10aを使い切ってしまった場合は、有機ボカシ肥料を早めに散布し、葉色の維持を図ってください。

表2 基肥肥料別追肥体系（例）

体系	基肥 (全層または側条施肥)					幼穂形成期頃追肥			減数分裂期頃追肥			投入窒素量 kg/10a		
	肥料名	散布量 kg/10a	N量 kg/10a			肥料名	散布量 kg/10a	N量 kg/10a	肥料名	散布量 kg/10a	N量 kg/10a	化成	有機	合計
			化成	有機	合計									
1	マイルドユーキ(53%有機)	40	1.88	2.12	4.0	NK化成 2号	6.0	0.96	NK化成 2号	6.0	0.96	3.80	2.12	5.92
2	フレーバーペースト734(50%有機)	40	1.4	1.4	2.8	NK化成 2号	8.0	1.28	NK化成 2号	8.0	1.28	3.96	1.40	5.36

体系	基肥 (全層または側条施肥)					幼穂形成期～減数分裂期頃追肥			投入窒素量 kg/10a		
	肥料名	散布量 kg/10a	N量 kg/10a			肥料名	散布量 kg/10a	N量 kg/10a	化成	有機	合計
			化成	有機	合計						
3	まろやかレッドペースト	25	3.0	0	3.0	NK化成 2号	6.0	0.96	3.96	0	3.96
4	コープガードD12	25	3.0	0	3.0		6.0	0.96	3.96	0	3.96
5	BB直播専用019	20	4.0	0	4.0	追肥なし			4.00	0	4.00

4 病虫害防除

1) 葉いもち

○ほ場の見回りにより早期発見に努め、病斑を発見したら直ちに予防剤と治療剤の混合剤（ブラシン、ノンブラス）を散布して下さい。

○葉いもちを多発させると特別栽培（農薬10成分以内）としては厳しくなりますので、十分注意してください。

2) 斑点米カメムシ

○畦畔や農道等の草刈りは、出穂10日前までに徹底しイネ科雑草の除去に努めます。

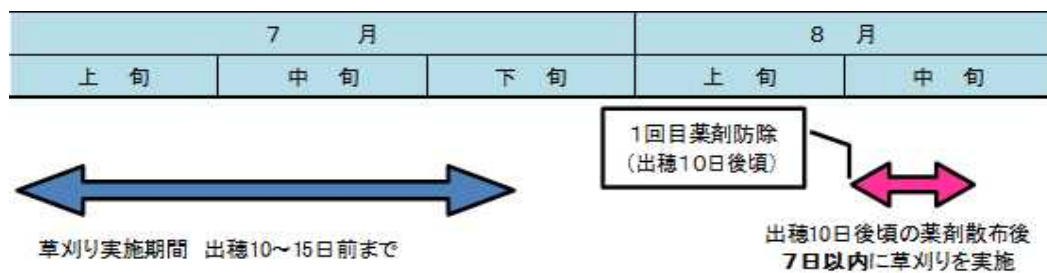


図1 農道・畦畔の草刈り時期